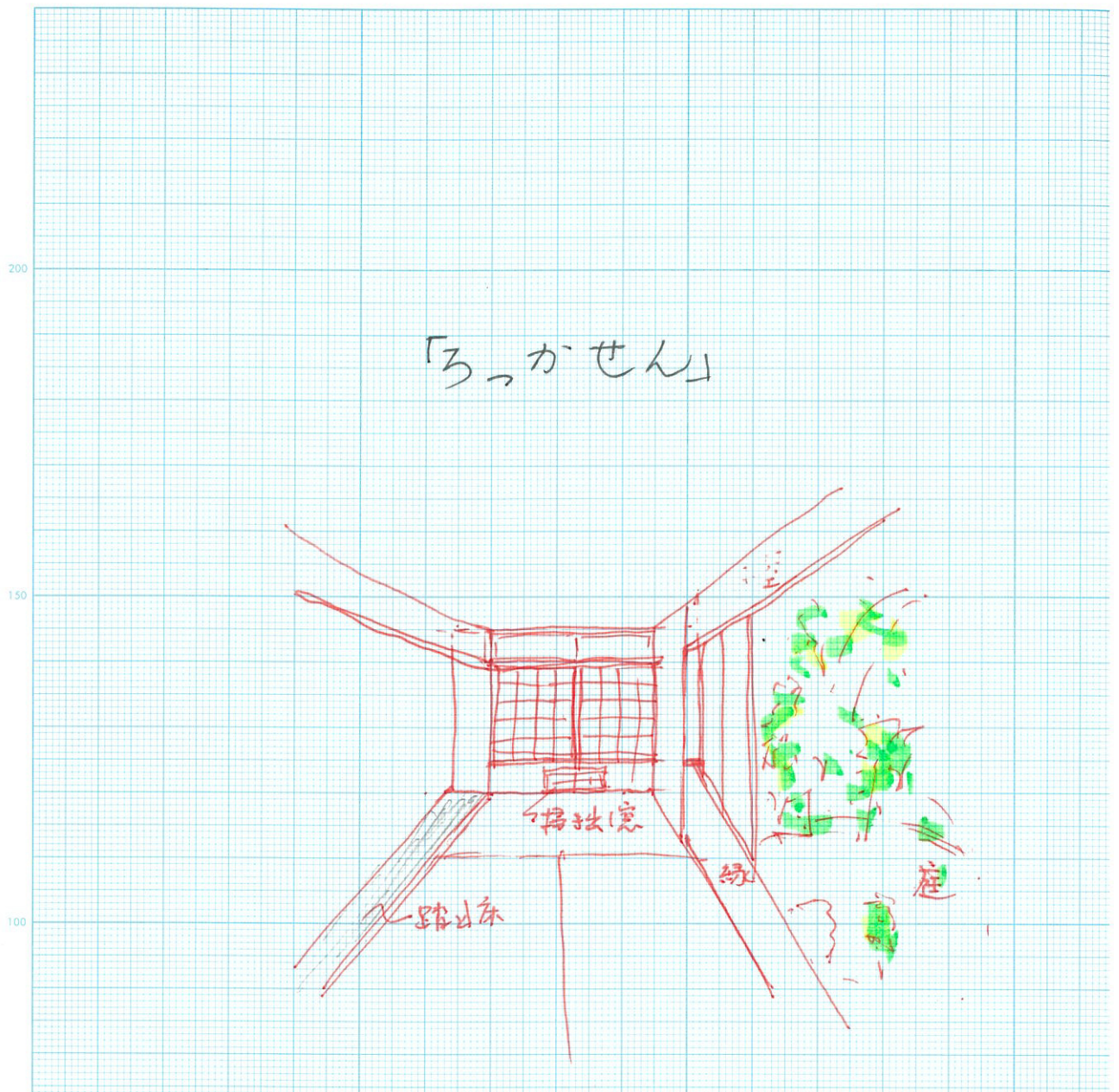


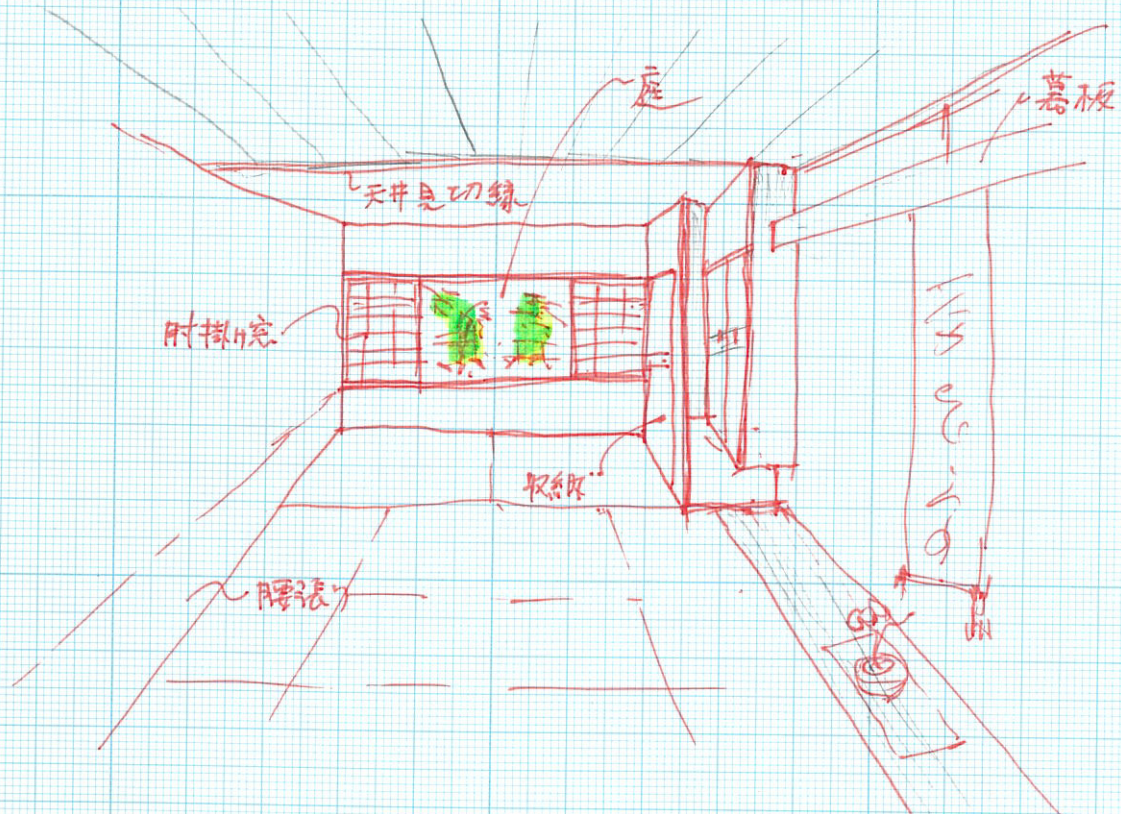


- ・ 1階の北の部屋
- ・ 6帖の間と踏込
- ・ 踏込床
- ・ 縁を渡る庭風を楽しむ
- ・ 東と北側の窓より庭を渡る風を嗜む
- ・ 肘掛窓と掃出し窓

あまみ温泉 「南天苑」

客 室：六歌仙

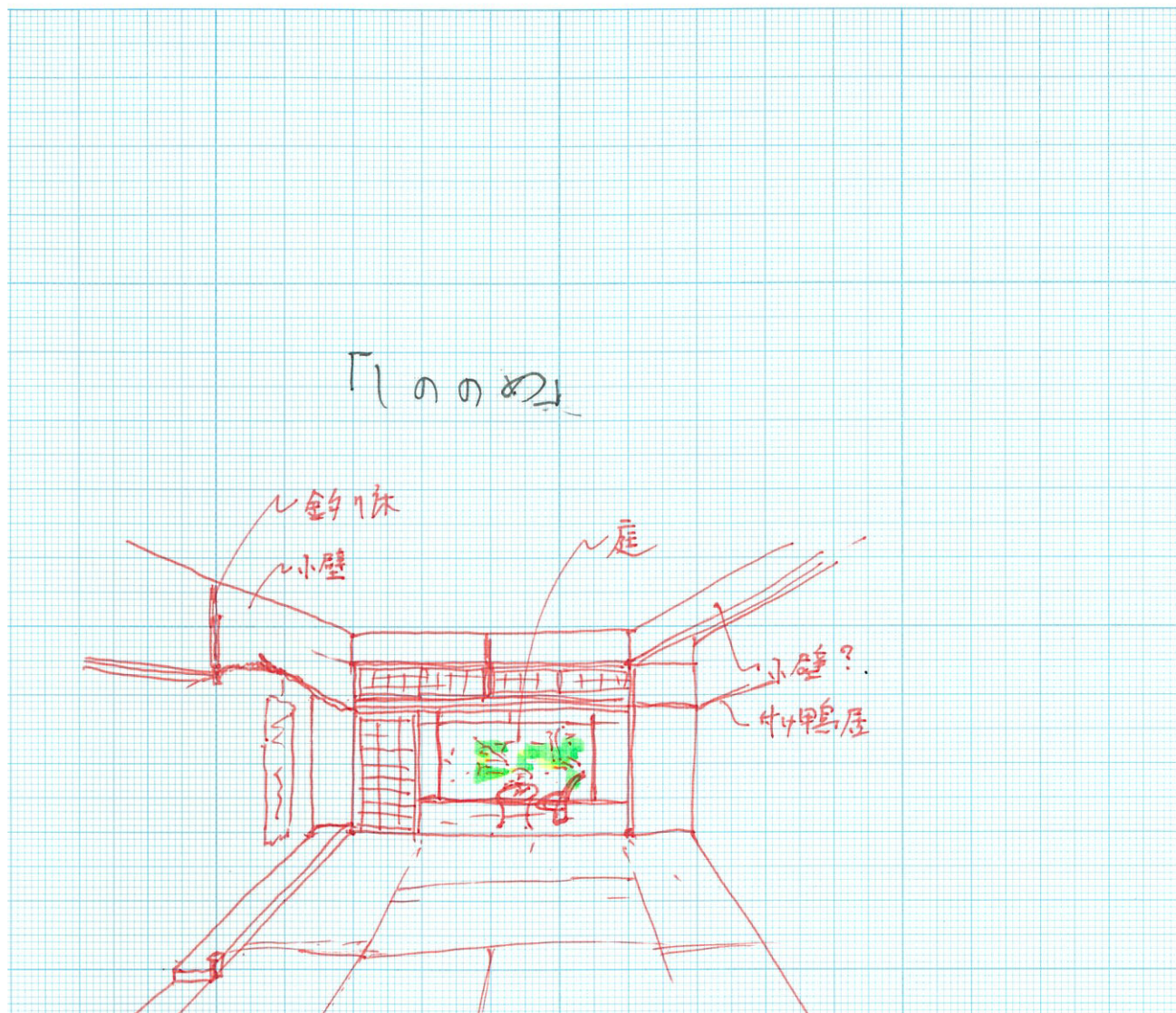
「はっゆめ」



- ・ 1階の南側の部屋
- ・ 7.5帖の間と控室
- ・ 踏込床と幕板（落とし掛け）
- ・ 床脇には収納と吊り戸だな
- ・ 天井：平天井（板張り）、見切り材あり
- ・ 窓は肘掛け窓（窓敷居に腰かけ、庭を眺める）

あまみ温泉 「南天苑」

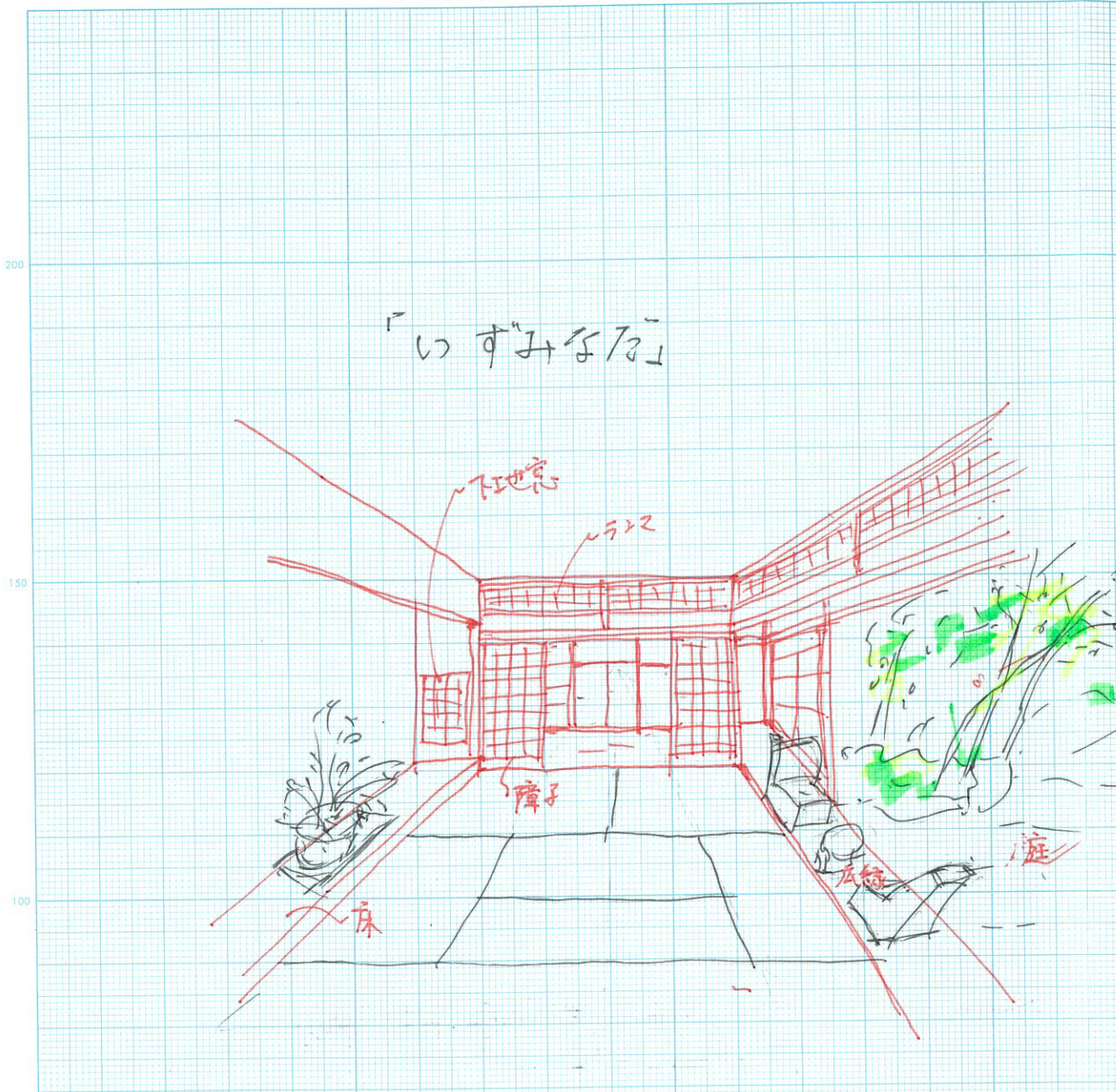
客 室：初 夢



- ・ 1階の南側の部屋
- ・ 6帖の間と控えの間
- ・ 釣り床に床框がある（奥行が浅い）
- ・ 床の落とし掛けは自然木（変朴）を使用
- ・ 広縁より庭を渡る風を嗜む
- ・ 広縁はガラス障子

あまみ温泉 「南天苑」

客 室：東 雲



- ・ 1階の東北側の部屋
- ・ 8帖の間と控えの間
- ・ 床の間 と落し掛け
- ・ 床の下地窓と障子
- ・ 大浜潮湯当時から残る間
- ・ 広縁のソファに持たれ庭からの風を楽しむ

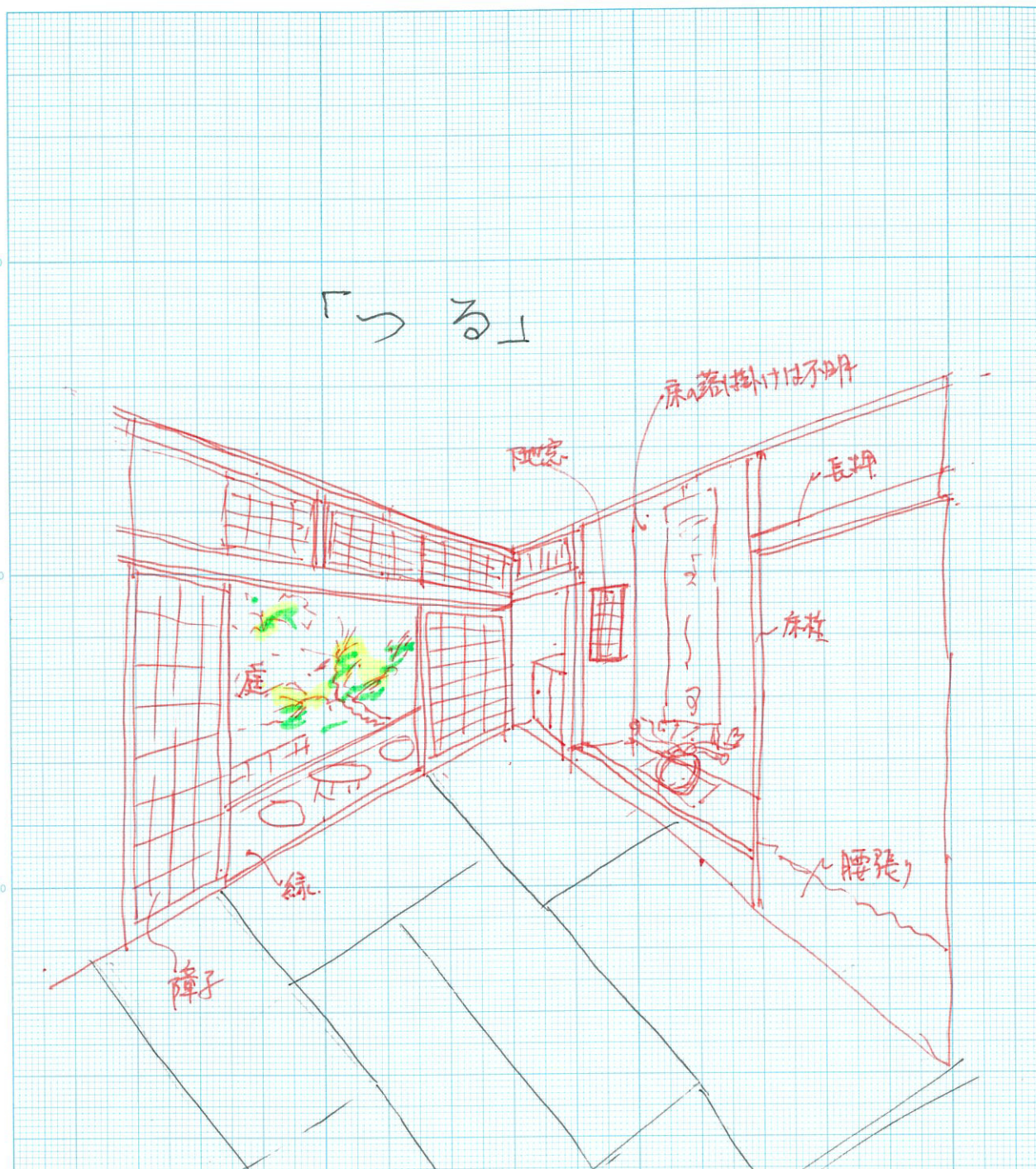
あまみ温泉 「南天苑」

客 室：泉 灘

200

150

100

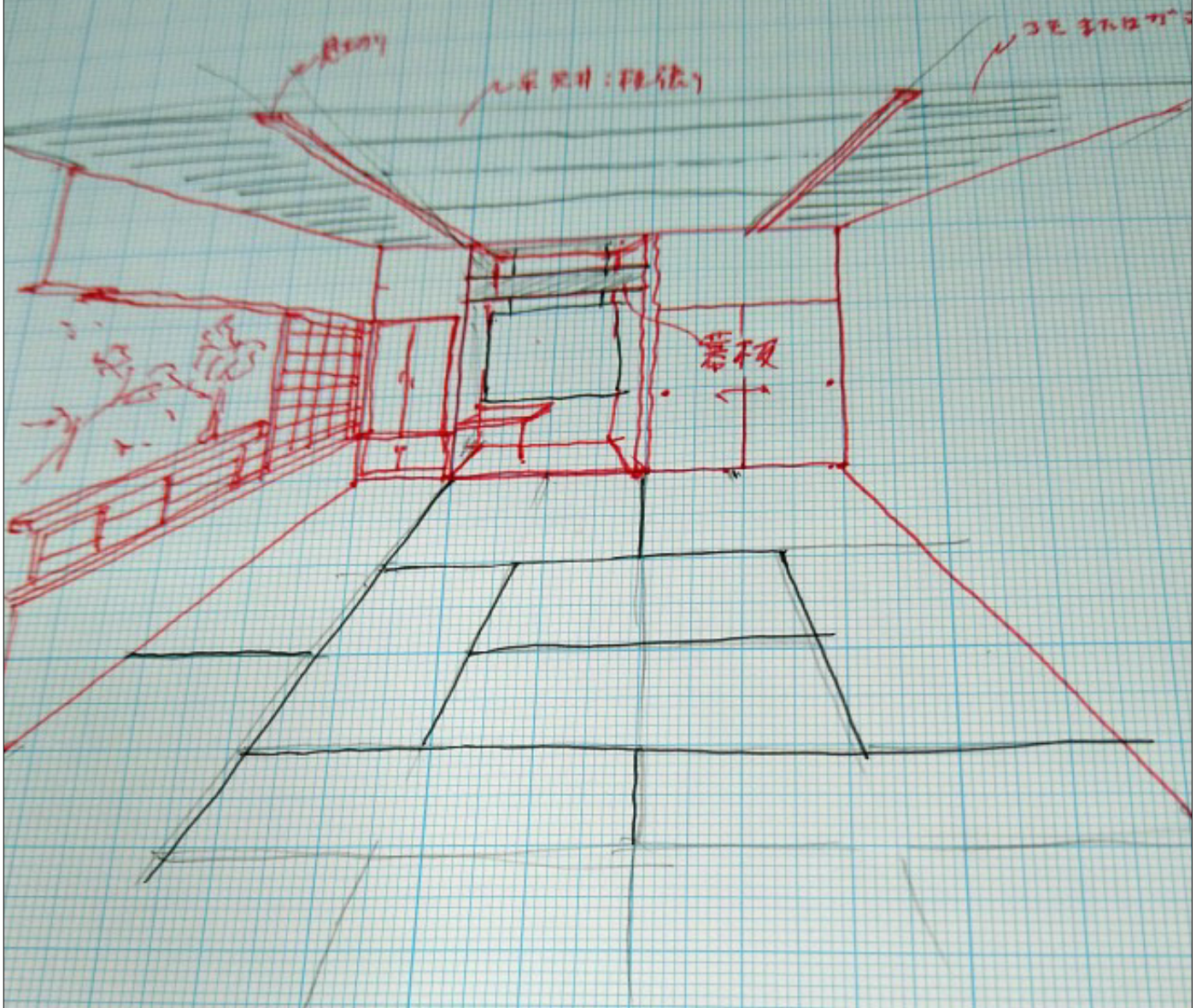


- ・ 1階の東側の部屋
- ・ 8帖の間と控えの間
- ・ 床の間 と落し掛け（不明）
- ・ 床脇に下地窓あり
- ・ 腰張りあり
- ・ 縁側で足を沓石に置き座卓にてを遣る

あまみ温泉 「南天苑」

客 室：鶴

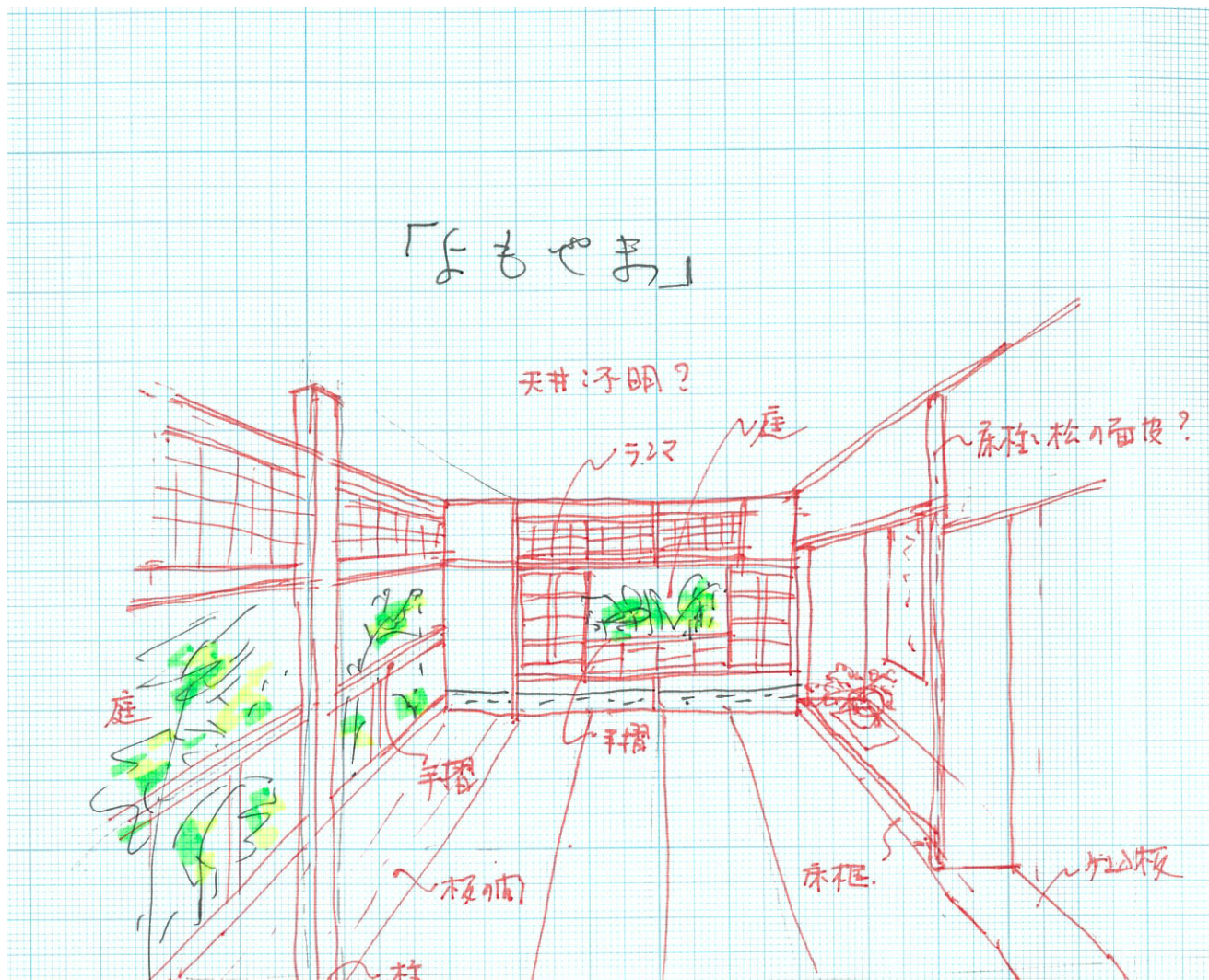
「どんぷく」



- ・ 2階の南の部屋
- ・ 10帖の間と踏込
- ・ 踏込床
- ・ 落とし掛けは幕板
- ・ 床脇に押入と収納
- ・ 肘掛窓と掃出し窓

あまみ温泉 「南天苑」

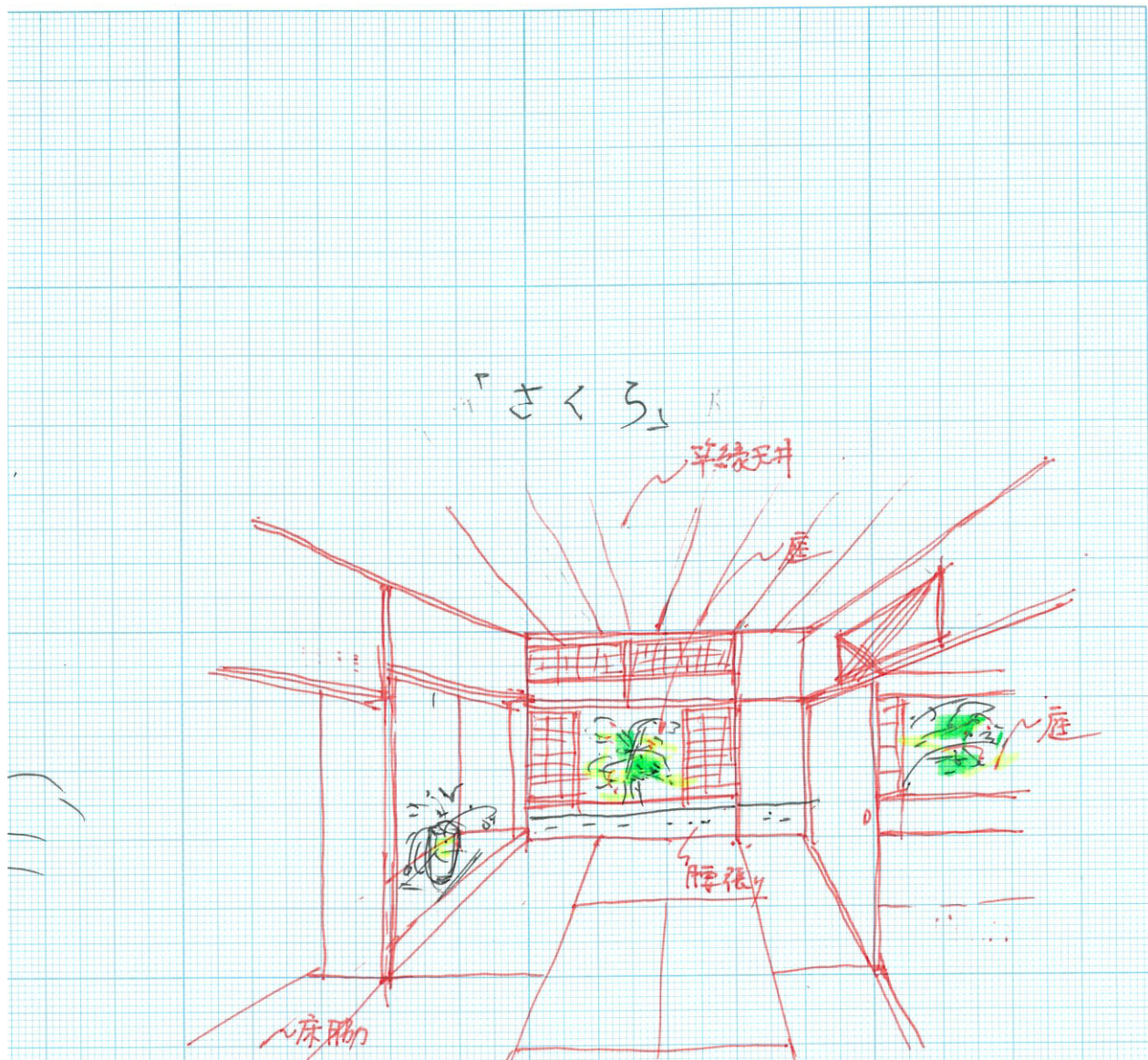
客 室 : 呑 福



- ・ 2階の東南角の部屋
- ・ 12帖の間と控室
- ・ 本床と落とし掛け
- ・ 床脇に蹴込板あり
- ・ 南窓は肘掛け窓（窓敷居に腰かけ、庭を眺める）
- ・ 一部東側部分に板の間があり
- ・ 壁に腰張り部分あり

あまみ温泉 「南天苑」

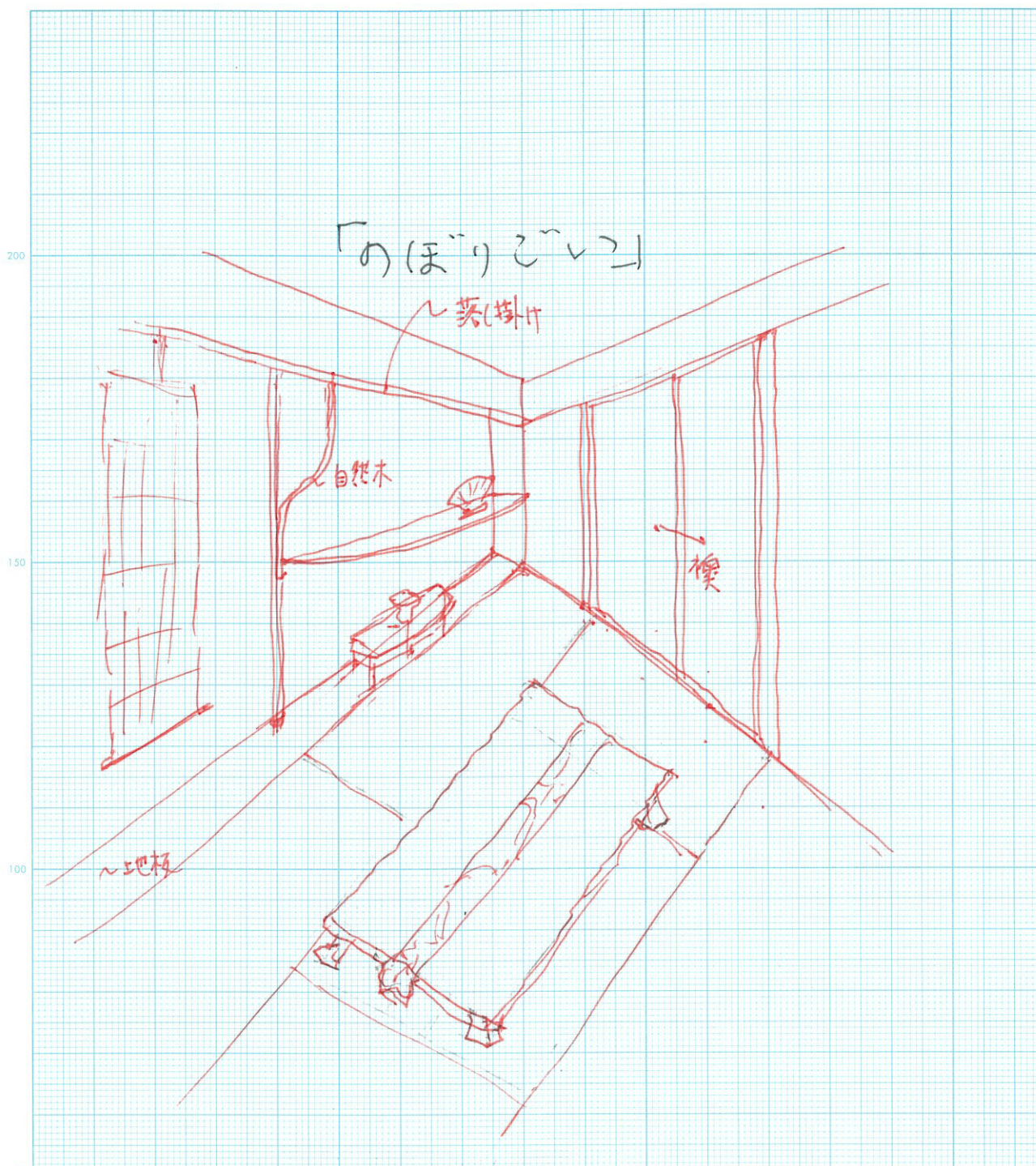
客 室：四方山



- ・ 2階の東側の部屋
- ・ 8帖の間と控えの間
- ・ 床の間 床柱：桜の面皮
- ・ 落とし掛け
- ・ 床脇：蹴込いた
- ・ 窓は肘掛け窓と木製の手摺（窓敷居に腰かけ、手摺に越しに庭を眺める
- ・ 腰張りあり

あまみ温泉 「南天苑」

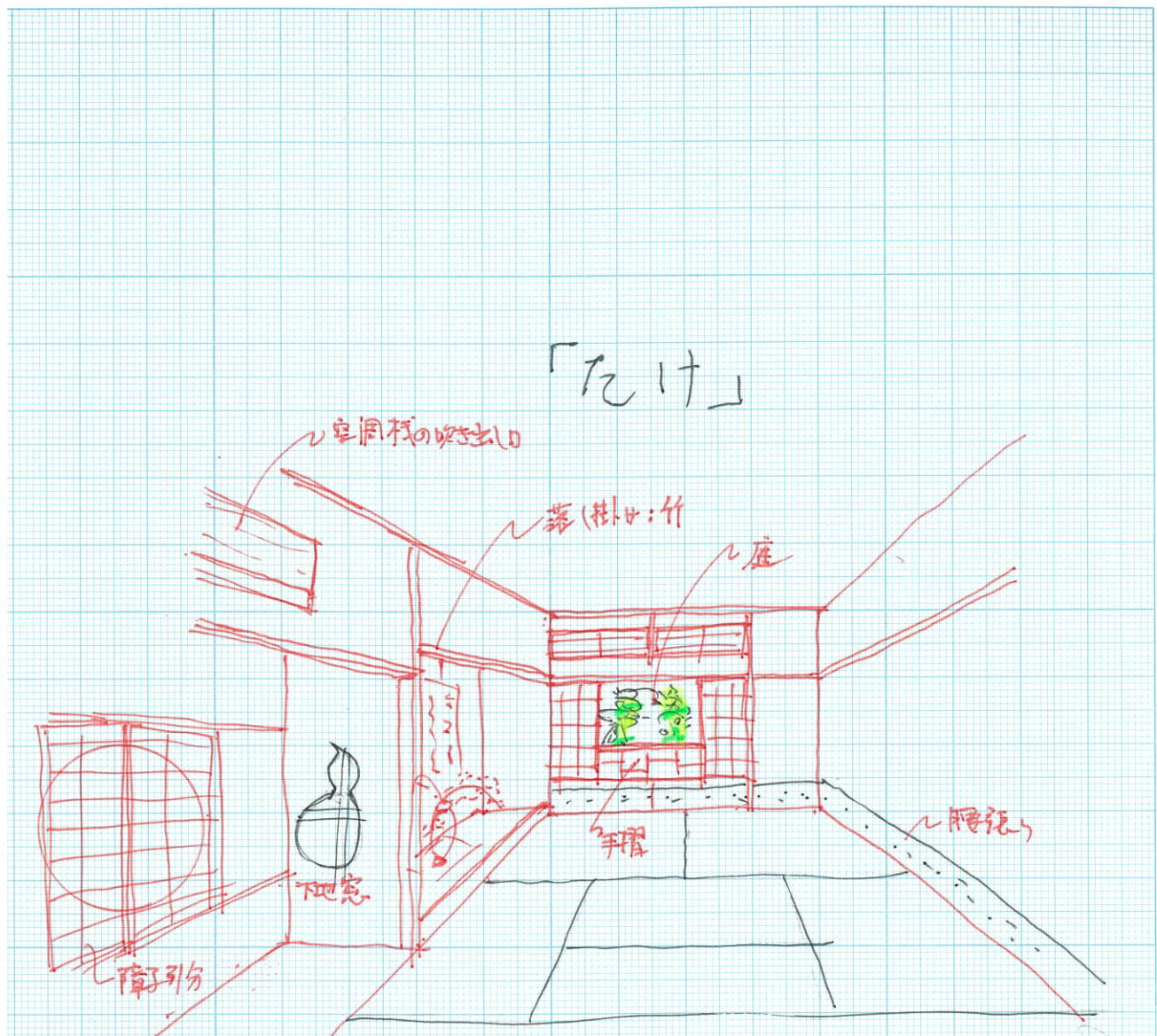
客 室：桜



- ・ 2階の北西の部屋
- ・ 8帖の間
- ・ 壁床形式
- ・ 壁の柱から天井に向かって持ち送り型に取付ける又は、落とし掛けを取付けることもある

あまみ温泉 「南天苑」

客 室：登 鯉



- ・ 2階の北側の部屋
- ・ 8帖の間と控えの間
- ・ 床の間 と落し掛け（竹）
- ・ 床脇に瓢箪方の下地窓あり
- ・ 床の下地窓
- ・ 床脇に丸窓と障子の引き分け
- ・ 広縁のソファに持たれ庭からの風を楽しむ

あまみ温泉 「南天苑」

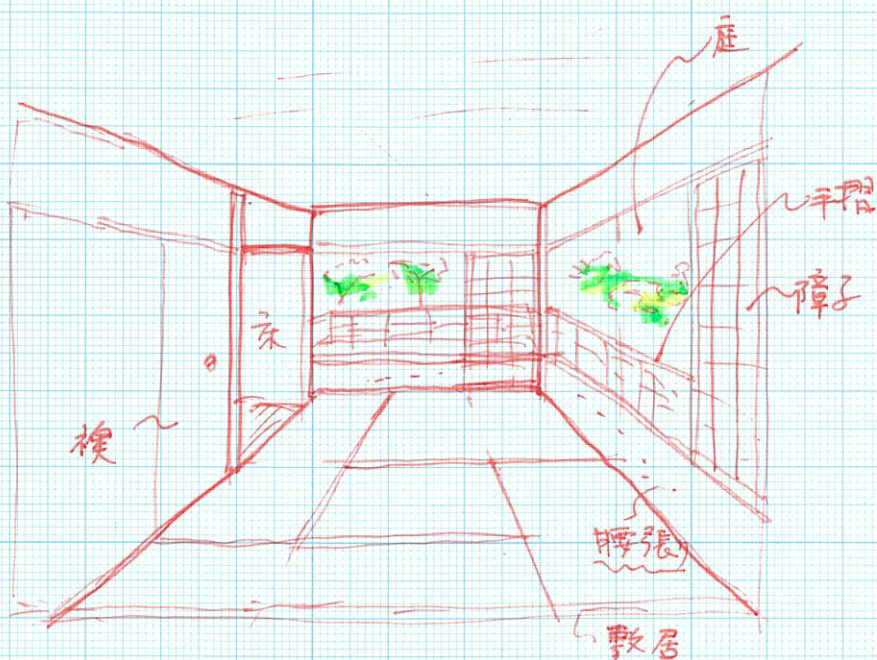
客 室：竹

200

150

100

「はなせぐら」



- ・ 2階の南西の部屋
- ・ 10帖の間と控室
- ・ 踏込床
- ・ 落とし掛け
- ・ 窓は肘掛け窓と木製の手摺（窓敷居に腰かけ、手摺に越しに庭を眺める）

あまみ温泉 「南天苑」

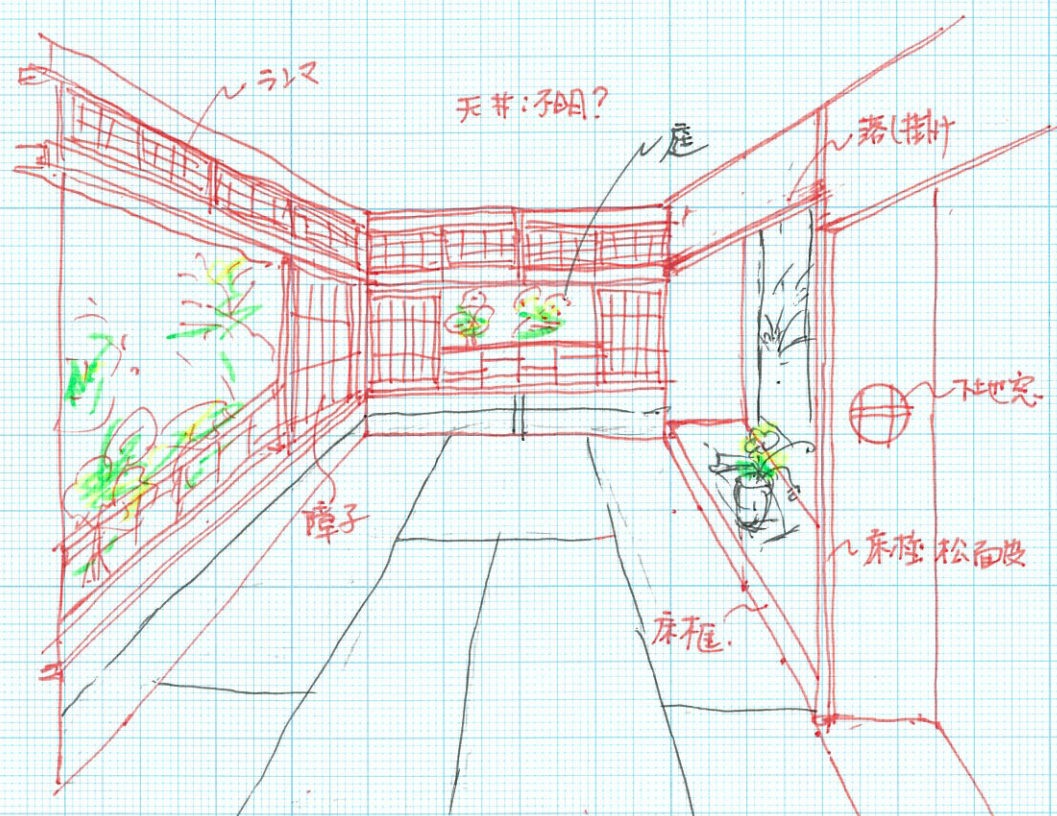
客 室：花 檜

200

150

100

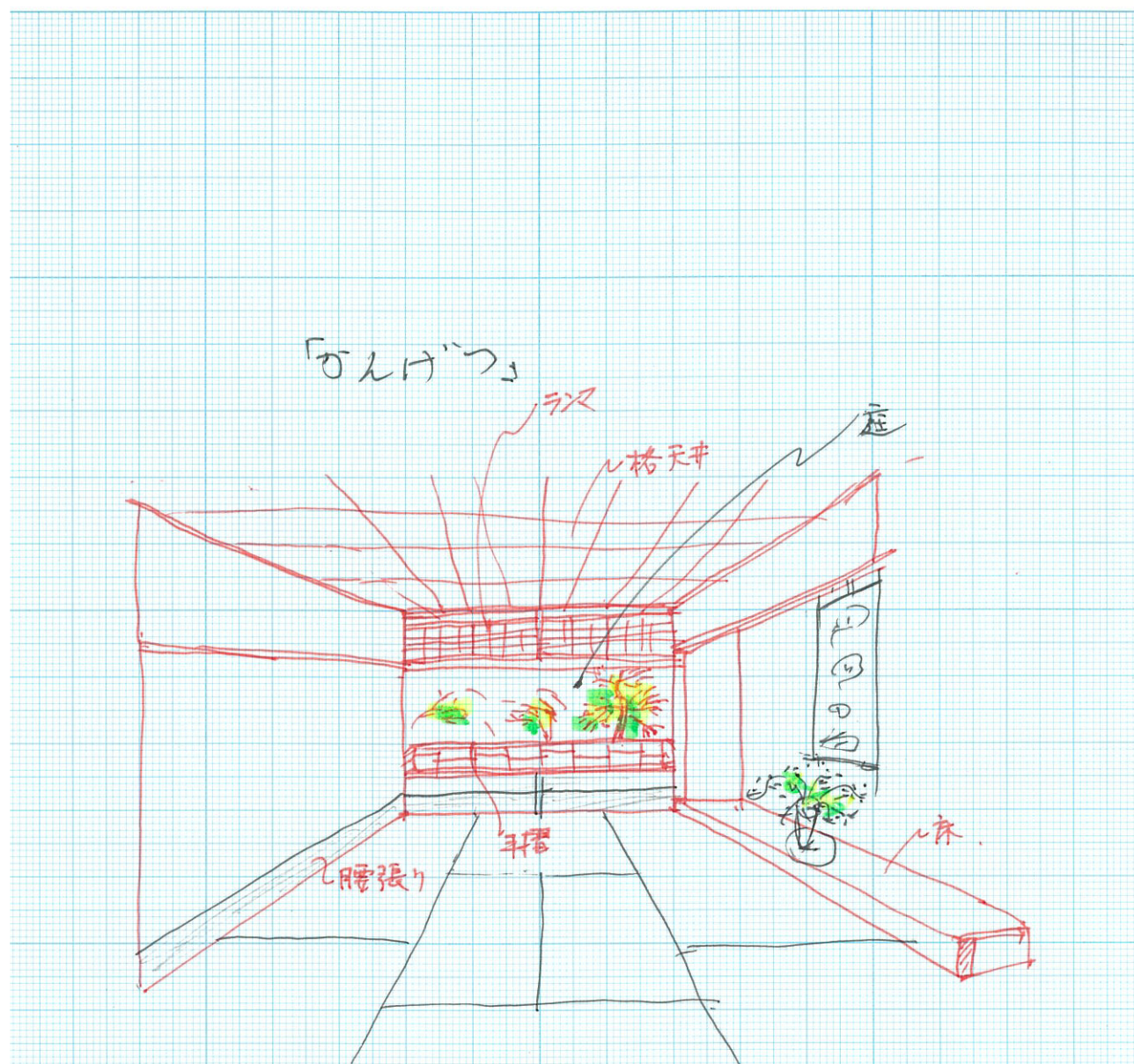
「ほうらい」



- ・ 2階の東北の部屋
- ・ 8帖の間
- ・ 本床で床柱（松の面皮？）、落とし掛け
- ・ 床の下地窓は丸円
- ・ 東と北側の窓より庭を渡る風を嗜む
- ・ 肘掛窓と手摺

あまみ温泉 「南天苑」

客 室：蓬 萊



- ・ 2階の南側の部屋
- ・ 8帖の間
- ・ 床の間
- ・ 落とし掛け
- ・ 窓は肘掛け窓と木製の手摺（窓敷居に腰かけ、手摺に越しに庭を眺める）

あまみ温泉 「南天苑」

客 室：観月

まちかど

人間録

河内長野市南部にある旅館「あまみ温泉 南天苑」の女将として、日本の伝統である旅館の灯を守るため、府内の女将仲間3人とともに奮闘を続けている。

昭和63年から南天苑で働き始め、平成6年に女将となった。宿の母屋は日本を代表する建築家・辰野金吾（1854～1919年）が設計し、大正2年に建築された純和風で、築100年以上の歴史を誇る。今でこそ、隠れた人気スポットとして、大勢の外国人旅行者にまで知られるようになったが、その道のりは決して平坦なものではなかった。

女将として20年以上、切り盛りする中で直面したのは、旅館の減少という危機だ。平成5年に府内で1358軒あった旅館は24年には808軒にまで激減。迫り来る荒波を前に、旅館を守るためにはどうすればいいか、考えあぐねていた。

「あまみ温泉 南天苑」女将

山崎友起子さん＝河内長野市



旅館の灯 守り続ける

転機が訪れたのは24年秋。偶然、フェイスブックを通じて府内の女将らとのつながりが生まれた。集まったのは「大和屋本店」（大阪市中央区）の石橋利栄さん（54）、「不死王閣」（池田市）の岡本尚子さん（58）、「犬鳴山温泉 不動口館」（泉佐野市）の河原千晶さん（52）の3人。抱える悩みも危機感も共通し

ていただけに、すぐに意気投合した。旅館の将来を盛り上げようと25年初め、4人で「大阪女将会」を結成。対策について語り合ったが、後継者不足だけが原因ではなく、宿の魅力を発信できていないため、宿泊客の選択肢から外されていることに気付いた。もっと積極的にPRしようと、手始めに26年2月、河内

ワインや泉州タマネギなど、各旅館の地元特産品を使ったレトルトカレー「なにわの女将の牛すじカレー」を作り、発売。今年6月末までに約5万8千食を販売するなど、新たな名物として定着した。各旅館では同時に、料理にもこだわりをみせている。南天苑では地元産のシイタケに河内産の力モ、京都の料亭に

よる重厚な建物と周辺に広がる里山風景を生かすなど「和」にこだわった演出が、多くの外国人観光客を魅了。インバウンド（訪日外国人客）の急増という追い風も受けて、外国人だけでも26年に約2160人だった宿泊客数は、27年には約2・5倍の約5350人に増えた。

その経験を生かし、山崎さんは今年、女将会メンバーの協力を受けながら、外国人観光客に対応するための業者向け英会話マニュアル動画を制作した。

も並ぶ富田林産のエビイモなど、四季折々の食材で客をもてなす。本館の伝統を守り続ける。

名建築家に

（藤崎真生）

やまさき・ゆき 昭和34年、河内長野市生まれ。短大卒業後、同市役所に採用。現在の「南天苑」社長、一弘さん（56）と結婚し、出産を機に退職。その後、旅館で働き始め、平成6年に女将に。25年初め、府内の別の旅館の女将3人とともに「大阪女将会」を結成。日本の伝統を守るため、力を合わせて旅館の魅力を発信し続けている。

ちまた 近ごろ巷に流行るもの

大阪府河内長野市の南部、ほどなく和歌山県という奥まった地にある温泉宿が、外国人観光客の注目を集めている。昭和24年創業の旅館「あまみ温泉南天苑」。母屋は東京駅丸の内駅舎や日本銀行本店を手がけた日本を代表する建築家・辰野金吾が設計し、移築された純和風建築。築100年以上の歴史を誇る趣深い建物と、周辺に広がるのどかな里山風景が外国人の心をつかんでいるようだ。

河内長野市史などによると、天見温泉は南海電鉄など「有馬温泉と肩を並べる温泉郷にしよう」と、昭和初期から開発を始めた。数軒の宿が建てられたが、「南天苑」の女将、山崎友起子さん(57)が嫁いできた昭和58年には、今も続くこの宿1軒になっていた。

そんな南天苑に外国人観光客の「熱視線」が集まり始めたのは、平成26年秋ごろから。ツイッターやフェイスブックなどソーシャル・ネットワークなどを通じて評判が高まると、26年に約2160人だった外国人の宿泊客数は、27年には約2・5倍の約5350人に急増。その国籍は実に47カ国にも上った。

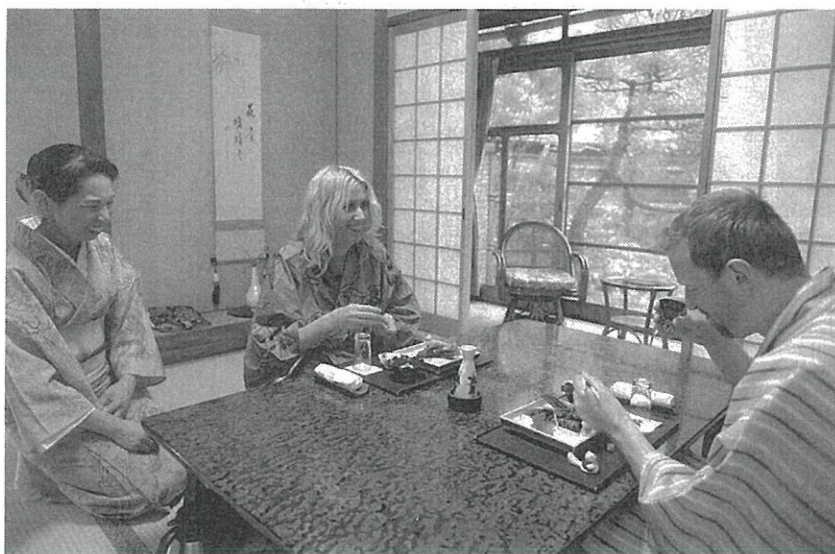
人気の秘密について、「純和風を徹底させてきた点にあるのでは」と山崎さん。木造2階建ての母屋は、日本建築界の重鎮・辰野金吾(1885

河内長野・昭和24年創業の旅館

「あまみ温泉南天苑」

純和風♡外国人客ら熱視線

「南天苑」で食事を楽しむ外国人旅行者。女将の山崎友起子さん(左)は「外国の方々が日本の伝統を認めてくださるのはとてもありがたい」と話す
—大阪府河内長野市



4(1919年)が手がけた大正2年の建築で、国の登録有形文化財にも指定されており、数寄屋造りの内装は茶室建築を思わせる「わび・さび」の雰囲気をつたえる。もともとこの建物は、堺市

の料亭「松蟲花壇」(廃業)の旅館「松蟲別館」(同)として運営されていたという歴史を持つ。その後、24年に現在の南天苑が引き継いだ。現在、定員258人の部屋が14あり、庭園に面した部屋からはカワセミやカモなど多くの野鳥が姿を見せる。瓢箪形の池や、金剛・萬城山系を望むことができる。春の桜や秋の紅葉の風景は絶品という。

また、山に囲まれ水田が広がる宿周辺の風景も魅力の一つ。外国人の多くがそんなのどかな雰囲気魅了されるといふ。あるスイス人男性の宿泊客は予定を急遽、2泊から



「南天苑」の入り口。母屋は建築家・辰野金吾の設計による大正2年の建築で、堺市にあったものを移築した

オランダから訪れた会社社長、デニス・クレインさん(36)夫妻は宿で2泊し、高野山をめづった。デニスさんは「シティーホテルにはない大きな部屋と美しい庭がすてき。日本の伝統的な雰囲気の中、ゆったりと流れる時間や料理を楽しめた」と絶賛する。

山崎さんは「外国の方々が日本の伝統や文化など『純和風』の価値を認めてくださるのは非常にありがたい。これからも、建物や宿の持つ伝統的な雰囲気を守っていききたい」と語った。

文と写真 藤崎真生

デスクから

東海道、北国海道の結節点として交通の要衝だった大津は、実は鉄道との縁も深い。明治13年、東海道線の大津—京都開通に伴って完成した旧逢坂山トンネル(約665m)は、日本人だけの手で初めて造られた鉄道トンネル。大津市内の国道脇にある東口は鉄道記念物に指定され、往時の姿を伝える。大津—長浜では、東海道線の全通まで国内初の鉄道



るきっかけになれば」と話す。江戸期には琵琶湖の水運を活用して北陸方面の物資が集積され、大津には諸藩の蔵

連絡船が運航されていた。大津市歴史博物館の学芸員、木津勝さんは、地域の人にも忘れかけたこれらの歴史に着目し、大津と鉄道をテーマにした企画展を開催、人気を得ている。「地域を知

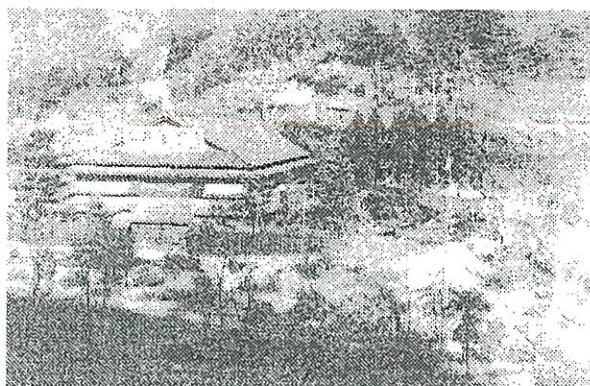
屋敷が立ち並んだ。商人町が形成され、東海道五十三次で最大規模の宿場とされた。時は過ぎ、現在の玄関口JR大津駅。「県庁所在地の駅と思えない寂しさ」と話題にされてきたが、今秋の完成予定で改修工事が進められている。「通りすぎる駅から立ち寄る駅」を目指すという。にぎわいを取り戻すきっかけになるか、注目していきたい。(大津支局 内山智彦)

国登録文化財 南天苑本館

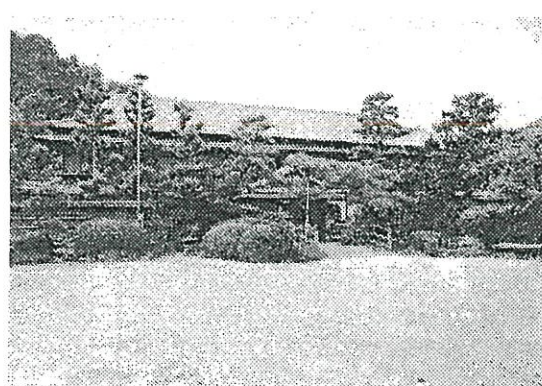
南天苑本館は、南海高野線沿いの天見にある温泉旅館の建物です。もともとは大正2年（1913）に阪堺軌道（後に南海鉄道と合併）が堺市の大浜公園に建設した娯楽保養施設『潮湯』の建物のひとつでした。「家族湯」と呼ばれ、主に個室風呂や個室の休息室が配されていました。この建物が、昭和9年（1934）に室戸台風で損壊し、これを機会に、昭和10年（1935）に現在の場所に移築されました。同年6月より大阪市阿倍野の旅館「松虫花壇」の別館として営業を始めました。

平成14年9月に「明治建築研究会」（柴田正巳代表）により建物調査が行われ、明治から大正時代にかけて活躍した建築界の大御所、辰野金吾博士の辰野片岡建築事務所の設計によるものであることがわかりました。

現在の建物は和風をベースとしながら諸所に洋風モダンな意匠を取り入れた、大正・昭和初期の建築様式を偲ばせる貴重な建物です。それにより平成15年（2003）に国の登録文化財になりました。



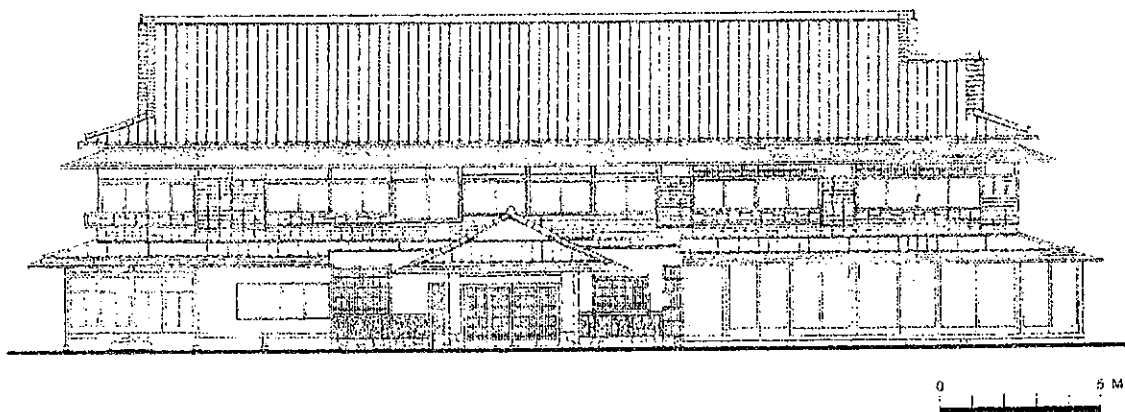
昭和20年代の南天苑



現在の南天苑

明治29年 (1896)	日本銀行本店
明治40年 (1907)	南海本線浜寺駅
明治41年 (1908)	奈良ホテル
明治43年 (1910)	南海難波駅
大正3年 (1914)	東京駅
大正7年 (1918)	大阪中央公会堂

辰野片岡建築事務所建物一覧



主屋 東立面図

河内長野市教育委員会 (製作)

河内長野市文化財ボランティア (協力)

建築家 辰野金吾

(下記について：ウィキペディアより引用)

■プロフィール◆

備前国唐津（現・佐賀県唐津市）に生まれ、唐津時代にはのちに首相となる高橋是清に英語を学んだ。さらに高橋の後を追って上京し、工部大学校（現・東京大学工学部）に第一回生として入学する、1877 年（明治 12 年）ロンドン出身の建築家ジョサイア・コンドルが造形学（建築学）教師として就任する。1879 年造家学科を首席で卒業し、1880 年に英国留学しコンドルの前職場とバージェス建築事務所、ロンドン大学で学ぶ。コンドルは明治期の洋館の建築家として活躍し、上野博物館や鹿鳴館、ニコライ堂（原設計はロシアのミハイル・シチュールポフ）など多数設計されました。

コンドルが工業部大学校造家学科教師退官後、1884 年に工業部大学教授に就任する。辰野金吾の建築特徴は、赤レンガに白い花崗岩でラインを描き、屋根に塔や小屋を載せた「辰野式」とよばれるデザインで、代表される建築は中央停車場（東京駅）であります。

■経歴■

- 1854 年：肥前国に生まれる 姫松家の次男ですが足軽よりも低い家格であった
- 1868 年：叔父の辰野宗安の養子になる
- 1873 年：工部省工学寮に第 1 回生として入学
- 1875 年：造船から造家（建築）に転じる
- 1879 年：造家学科を卒業する
- 1880 年：英国留学をする
- 1886 年：帝国大学工科大学教授、造家学科（後の日本建築学会）を設立する
- 1898 年：帝国大学工科大学学長就任
- 1903 年：辰野葛西事務所の設立
- 1905 年：辰野片岡事務所の設立
- 1919 年：国会議事堂の設計競技で審査員を務める、3 月 25 日なくなる

■作品■ 一部の掲載

- 1896 年：日本銀行本店（現：日本銀行本店旧館）→東京都日本橋区 重要文化財
- 1903 年：日本銀行大阪支店 →大阪市
- 1906 年：日本銀行京都支店 →京都市 重要文化財
- 1907 年：浜寺公園駅 →大阪府堺市 登録有形文化財
- 1909 年：国技館 →東京都墨田区 存在しない 1982 年解体
- 1909 年：日本生命九州支店（赤煉瓦文化館） →福岡市 重要文化財

1909 年：奈良ホテル	→奈良市	木造建築	
1911 年：盛岡銀行本店本館（岩手銀行赤レンガ館）	→岩手県盛岡市	重要文化財	
1911 年：松本健次郎邸	→福岡市唐津市	登録有形文化財	木造建築
1912 年：朝鮮銀行（韓国銀行貨幣博物館）	→大韓民国ソウル	韓国銀行貨幣博物館	
1914 年：中央停車場（東京駅丸の内駅舎）	→東京都千代田区	重要文化財	
1914 年：武雄温泉新館・楼門	佐賀県武雄市	重要文化財	
1918 年：大阪市中央公会堂（中之島公会堂）	→大阪市	重要文化財	実施設計
1913 年：家族湯（ご楽保養施設の「潮湯」の一つで「家族湯」	→堺市の大浜公園		
1935 年：上記の建物が河内長野市あまみ温泉に移築		登録有形文化財	

■逸 話■

1914 年に建設された東京駅のドームの天井に干支の 8 種類（ウシ・トラ・タツ・ヘビ・ヒツジ・サル・イヌ・イノシシ）が見られるが、4 種類（ネズミ・ウサギ・ウマ・トリ）は、武雄温泉楼門の天井四隅にみられて、十二支が揃うことになります。

■南天苑本館について■

（文化財特別公開事業：くるっとまちじゅう博物館 2007 より引用）
河内長野市教育委員会 （製作）
河内長野市文化財ボランティア（協力）

2002 年（平成 14 年）9 月に「明治建築研究会」柴田正巳代表により建物調査が行われ、明治から大正時代にかけて活躍した建築界の大御所、辰野金吾博士の辰野片岡建築事務所の設計によるものと分かりました。

現在の建物は和風をベースとしながら諸所に洋風モダンな意匠を取り入れた、大正・昭和初期の建築様式を偲ばせる貴重な建物です。それにより 2003 年（平成 15 年）に国の登録有形文化財になりました